

ヤリイカ底建網を中心とした共同複合経営の試み
～漁家経営の安定と管理型漁業を目指して～

金浦養殖研究会

佐々木鉄也

1. 地域と漁業の概要

金浦町は秋田県沿岸南部の霊峰「鳥海山」の麓に位置し、人口5,308人、世帯数1,558世帯で、漁業を中心とした活気のある町である（図1）。毎年2月4日には守護神への感謝、海上安全、大漁祈願のために、20kg以上もある大寒鱈を神前に奉納する掛魚（かけよ）祭りが行われ、また、温泉や南極探検家「白瀬中尉」の育った地としても有名である。

秋田県南部漁業協同組合金浦本所の組合員数は平成8年で164名であり、底びき網、定置網、さし網、一本釣り等多種多様な漁業が営まれており、総漁獲量は1,066トン、漁獲金額は5.3億円となっている。

2. 研究グループの組織及び運営

当研究会の前身はサケ・マス等を対象とした浮き定置網漁業を中心としたグループであるが、将来の水産業永続のための資源管理型漁業の推進、養殖経営への取り組み、経営の安定化等を目標に、平成6年4月に会員数6名の「金浦養殖研究会」を設立し、共同で複合経営を行ないながら各種の試験研究活動を行なっている。

経営は既存漁業である、浮き定置網漁業、底定置網漁業、コアミ・黒エビひき網漁業、カレイさし網等のほか、平成6年から試験としてヤリイカ底建網漁業及びヒラメ養殖を加えた複合経営を行なっている（表1）。漁獲物はすべてプールし、研究会の水揚げとしている。なお、会員全員が7～8月には潜水漁業を行なっているが、その収入については個人のものとしている。

3. 技術又は経営等の問題点と活動課題選定の動機

金浦町沿岸は西に開けた比較的単調な地形をしており、夏は風が多く、冬は時化が多い傾向にあるが、地形上、夏に風が多くてもいったん時化になると、遮るものがないため、海面養殖は非常に難しいとされてきた。そのため、養殖に関心があっても、長年導入に踏切ることが出来なかった。

また、冬期間は強い季節風のため操業日数が極端に減少し、漁業経営上極めて厳しい状況となることから、多少の時化の時でも無理に操業したり、操業しても短時間であったりと、危険かつ非能率的な状態であった。

そのため、新養殖や、新漁法の導入により、周年、安定かつ安全な生産活動を展開する方法がないものかと機会あるごとに我々会員で話し合いをし模索してきた。

そのような折り、県で中層式養殖生簀の技術が開発されたとの情報を聞き、当地区で

も導入が出来るのではないかと、思い切ってヒラメ養殖試験を行なうこととした。

また、同時に、ハタハタの禁漁に伴う代替漁業として青森県の日本海側で盛んに行なわれているヤリイカ底建網漁業の試験操業も行なうこととした。

なお、平成7年5月からは共同漁業権漁場内にヤリイカ底建網を1カ統設置する代り、これまで実施していた共同漁業権漁場内のカレイさし網を行わないこととした。

4. 研究・実践活動の状況及び成果

(1) 浮き定置網漁業・底定置網漁業

浮き定置網漁業は2カ統で、マス漁を中心に4～6月、サケ漁を中心に9～12月に行い、また、底定置網は1カ統でタイ、ブリ、アジ等を中心に5～6月に行っている。近年は、サケが大漁であるにもかかわらず、単価の下落で漁獲金額が伸び悩んでいる。平成8年の水揚げは24.3トン、670万円であった。

(2) コアミ・黒エビひき網漁業、カレイさし網漁業

コアミ・黒エビひき網漁業の漁期は2～4月、カレイさし網漁業は1～2月に、各々個人で所有している船で操業している。平成8年の水揚げは3.0トン、180万円であった。

(3) ヤリイカ底建網漁業（試験）

ヤリイカ底建網漁業の導入試験は平成6年から実施している。導入にあたっては、資料による勉強会を開催し、十分予備知識を得たつもりであったが、初年度の操業では思うような成績が得られなかった。そのため、翌平成7年に先進地である青森県鯉ヶ沢を訪問し視察研修を行い、そこで得た新しい知見を基にして、操業方法、漁具の見直しを行い、再度操業した結果、操業期間が長かったこともあるが、平成8年は前年の5倍以上の漁獲量を得ることが出来た（図2）。

平成8年はヤリイカ以外の漁獲データを得るため、4月以降も操業を実施した。その結果、12月～4月に網口を北向きにするとヤリイカ、ヒラメ、カレイ類が獲れ、5月以降に網口を南向きにするとタイ、アジが獲れる傾向にあることが判明した。特に、ヤリイカは2月に1.8トン、タイは6月に4.5トンの水揚げがあり、平成8年の水揚げは22.6トン、2,207万円であった（図3）。

(4) ヒラメ養殖（試験）

養殖については、全員が未経験者であり、さらに、中層式養殖生簀という特殊なものであったため、事前に勉強会を開いて予備知識を得てから行った（図4）。

漁港内の静穏域でかつ水交換の良い場所に中層式養殖生簀を設置し、春に200mm種苗を収容し、秋には800g以上にして出荷することを目標に養殖を開始した。

給餌は、2人1組になって当番制で行った。日毎の交代制で行うと人任せになる傾向があると同時に、毎日同じ人が見るわけでないので、ヒラメの異常に気付きにくくなるため、1組が連続した2週間を責任を持って管理する体制にした。

また、餌は底建網などで捕れた商品価値の低い小型のアジ等を与え、生産コストの低減に努めた。本年度の養殖期間中、毎日朝晩2回、始めの1カ月は約10kg入りコン

テナ2個/日、以降は3個/日分の餌を与えた。餌は生餌より冷凍した方が食いが良かった。

平成6年はスレ等による疾病の発生、平成7年は時化による網の破損での逃避で出荷できなかつたため、平成8年は養殖生簀を前年度以上の大きな時化にも耐えられる様に改良し、さらに、場所を港奥に移動した。その結果、生残率94%、平均全長411mm、平均重量884gの好成績で出荷することができた(図5、6)。これは生簀の固定をしっかりとし養殖環境を良くしたことや、責任をもった管理体制で養殖を行ったからであると思われた。出荷数は2,017尾、1,716.5kg、金額は317万円であった。

以上のように平成8年は試験であるヤリイカ底建網、ヒラメ養殖の成績が非常に良かったため、前年以上に経営が安定した(図7、8)。また、給料体系は全員同一で基本給+出来高であるが、基本給以上の収入があった月が多く非常に喜んでいる。

5. 波及効果

共同で複合経営を行うことにより資材、器材などの投資が少なくて済むほか、1部門が不振であったとしても、他部門でカバー出来ることから、経営の安定化が図られた。

ヤリイカ底建網に入った魚は数日間は生きていることから、悪天候時に無理して操業しなくてもよいため、漁業自体に余裕が持てるようになり、休日を定めやすく、時間を計画的かつ有効に使えるようになった。

さらに、アワビの放流事業などの地域活動にも積極的に参加できるようになったことから、研究会メンバーの資源管理に対する関心はますます高まってきていると思われる。これらの活動を契機に、メンバー同志の団結力が以前にも増して強くなり、また、人を思いやる心がより強く持てるようになってきた。

さらに、複数人での操業なので、危険度が非常少なく、家族の心配もほとんど無くなったと思われる。

ヤリイカ底建網は、浮き定置網と比べて小型であるにもかかわらず漁獲量が多く、また、設置水深が深いことから時化で破損・流失する心配はほとんどない。また、他の漁業種類と組み合わせが可能であるため、ヤリイカ底建網を中心とした複合経営が他の地区へ波及するものと期待されると同時に、経営が安定すると考えられる。すでに、県内では平成6年に2経営体であったものが、平成8年には8経営体と急速に増加している。

7. 今後の計画と問題点

ヒラメの養殖は3年目にして出荷できたが、次年度以降も安定して出荷できるよう管理を徹底し、コスト削減に努めなくてはならない。また、養殖ヒラメや定置網による漁獲物は活魚出荷が十分可能であるにもかかわらず、流通ルートが確立されておらず、販売価格が低迷していることから、今後より良い販売ルートの開拓や付加価値を高めるための方策が必要となってくる。

今後、この6人の共同によるヤリイカ底建網を中心とした複合経営がさらに高水準で安定するように、いっそうの資源管理型漁業に取り組むと共に、加工・流通も含めた改善が必要と思われる。

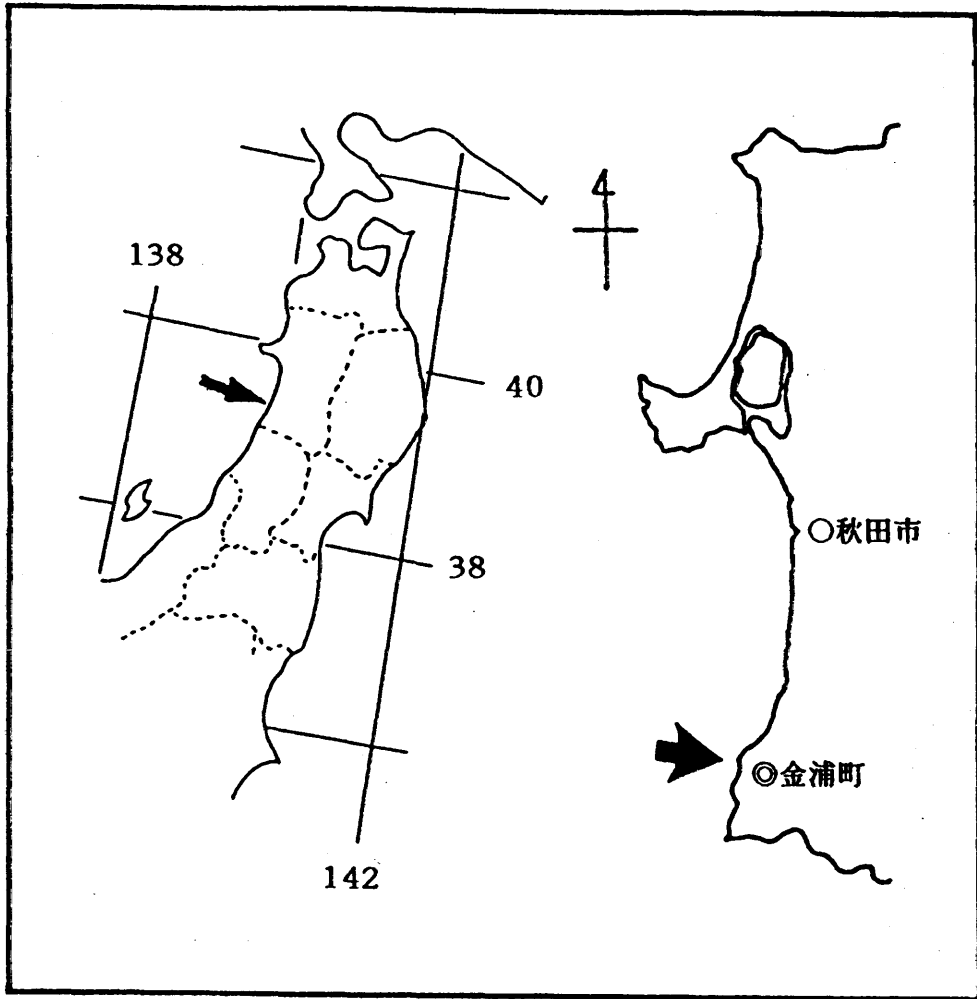
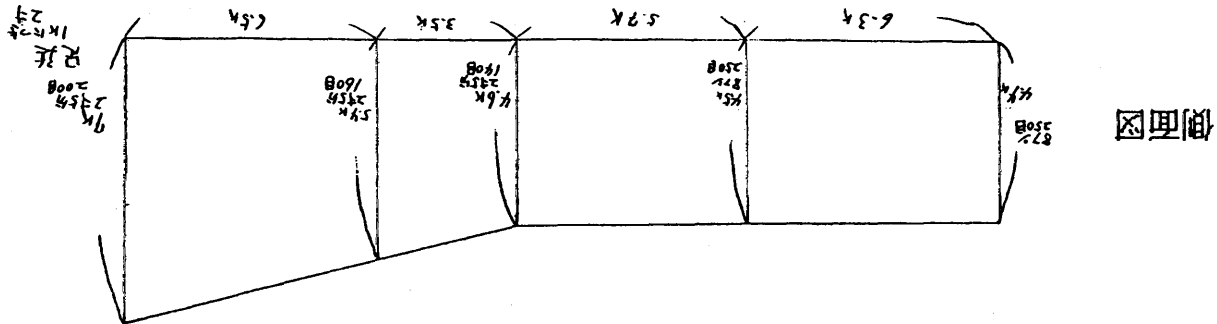


図1 位置図

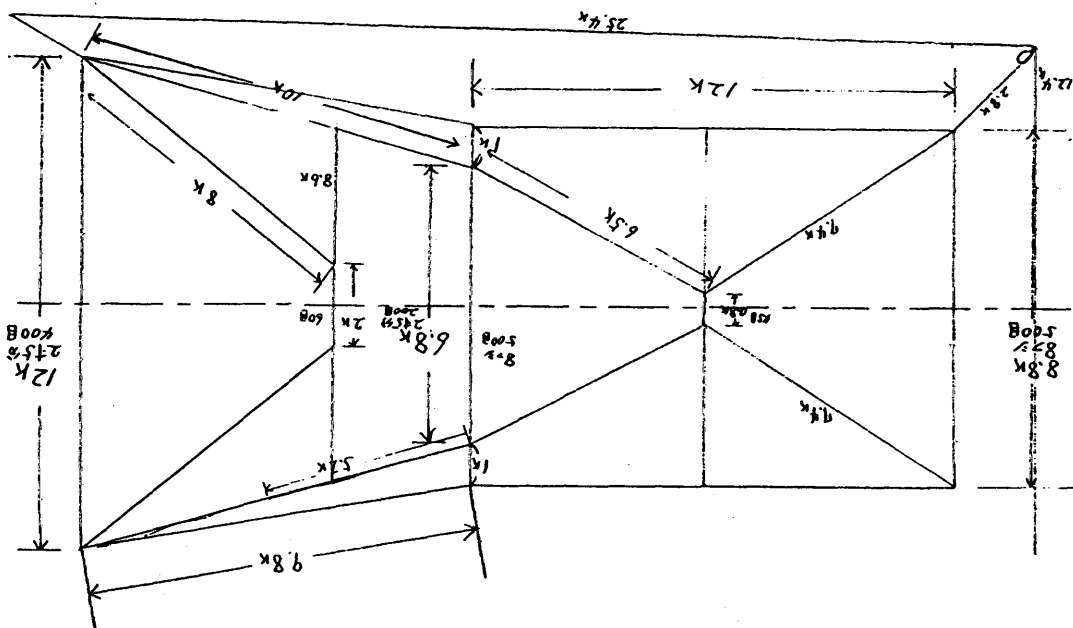
表1 金浦養殖研究会操業状況

| 漁業種類 | 数 | 平成8年の操業状況(月) | | | | | | | | | | | | 備考 | |
|------------|---|--------------|----|---|----|---|----|---|---|----|----|----|----|----|-----------|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | |
| 共同操業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 浮き定置網 | 2 | | | | ←→ | | | | | ←→ | | | | | |
| 底定置網 | 1 | | | | ←→ | | | | | | | | | | |
| アミ・黒比ひき網 | - | | ←→ | | | | | | | | | | | | 個人船操業チーム制 |
| カレイさし網 | - | ←→ | | | | | | | | | | | | | 個人船操業チーム制 |
| ササキ底建網(試験) | 3 | ←→ | | | | | | | | | | | | | |
| ヒラメ養殖(試験) | 1 | | | | ←→ | | | | | | | | | | |
| 個人操業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 潜水 | - | | | | | | ←→ | | | | | | | | |

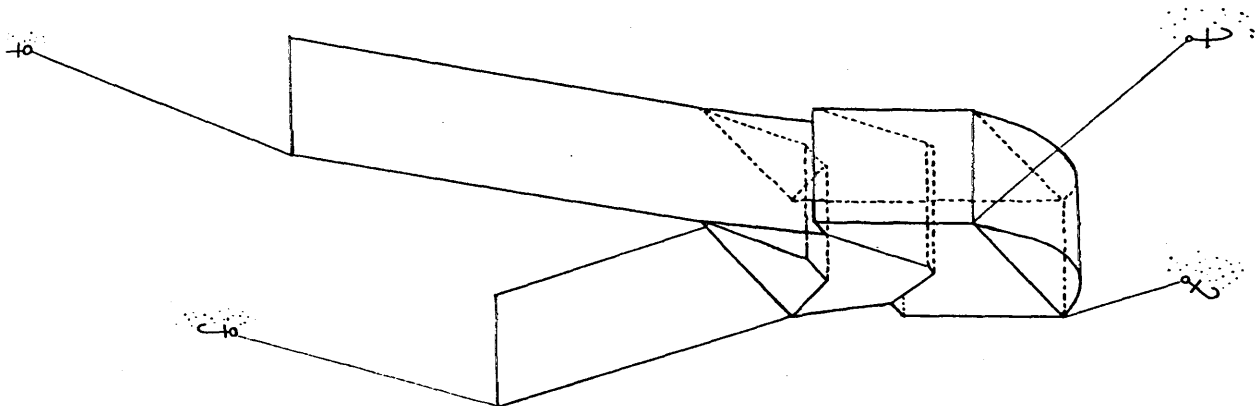
图2 底建網漁具图



侧面图



平面图



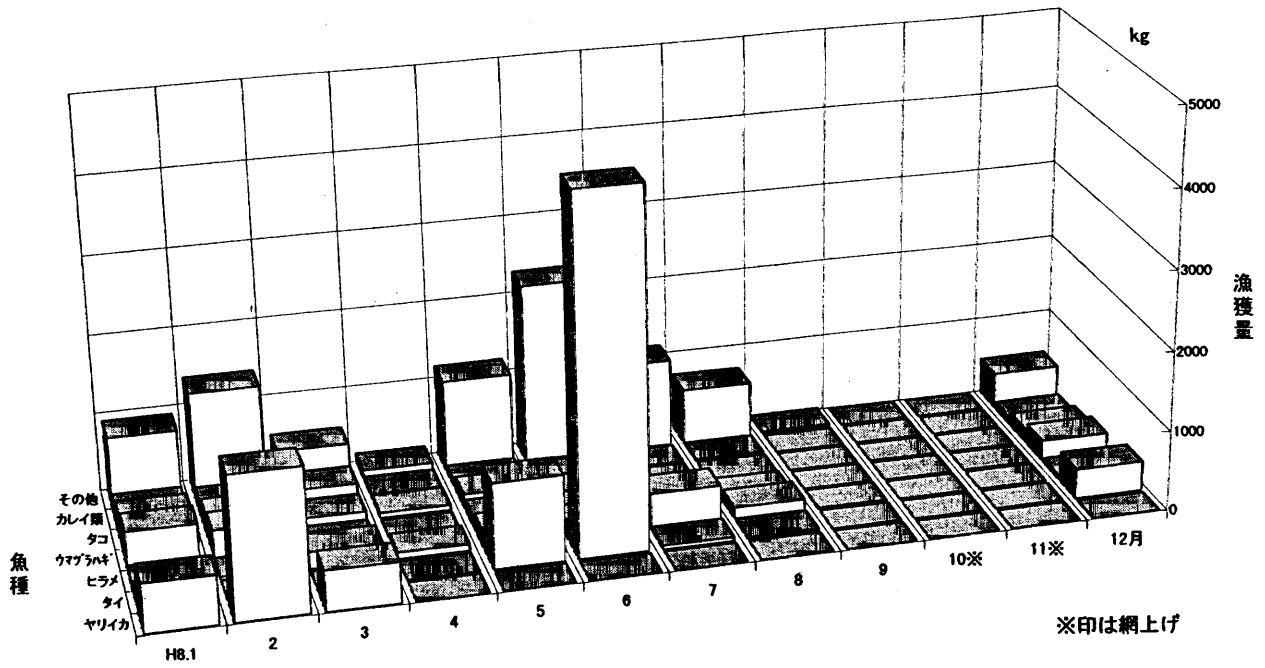


図3 金浦養殖研究会底建網漁獲量(平成8年)

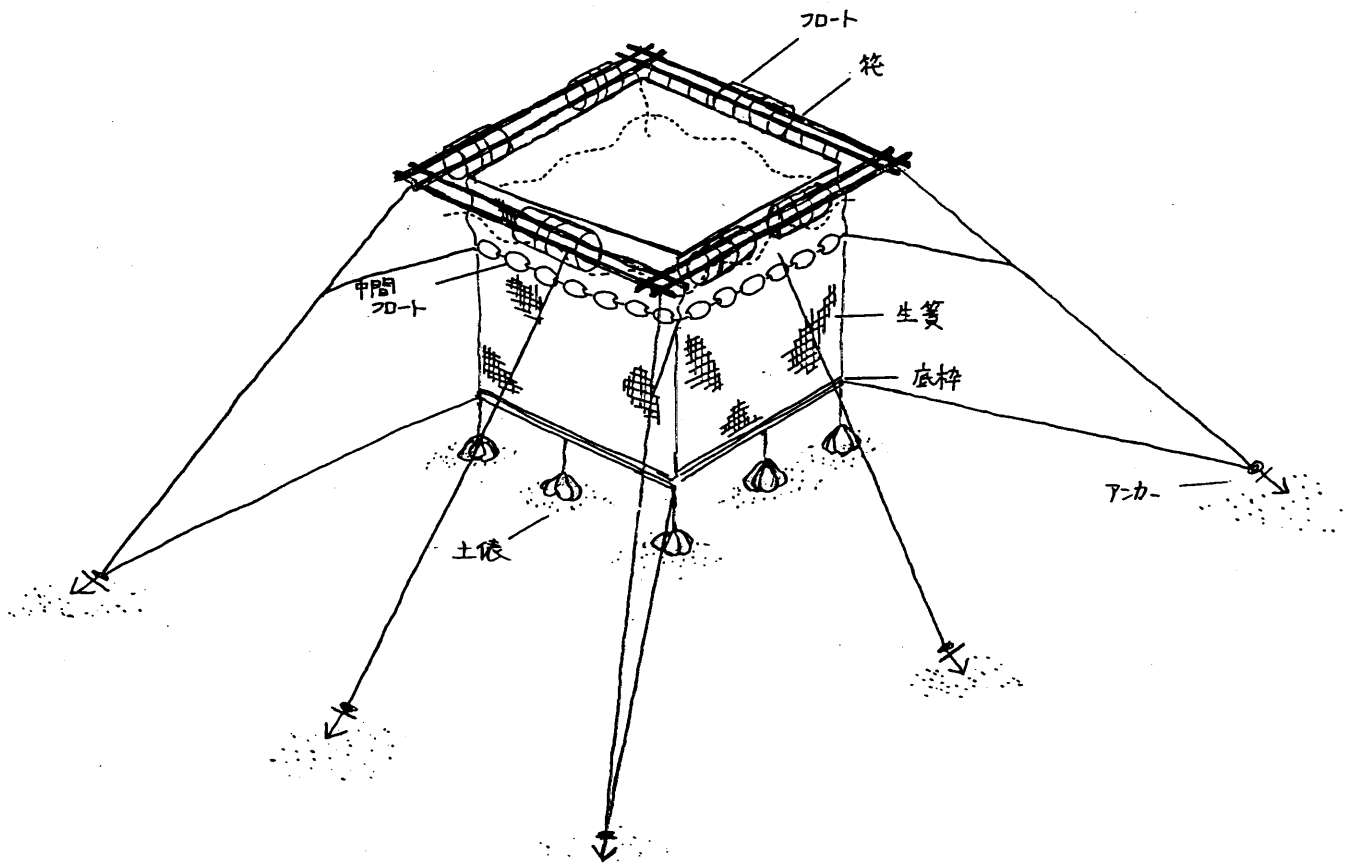


図4 ヒラメ中層式養殖施設(筏式・改良型)

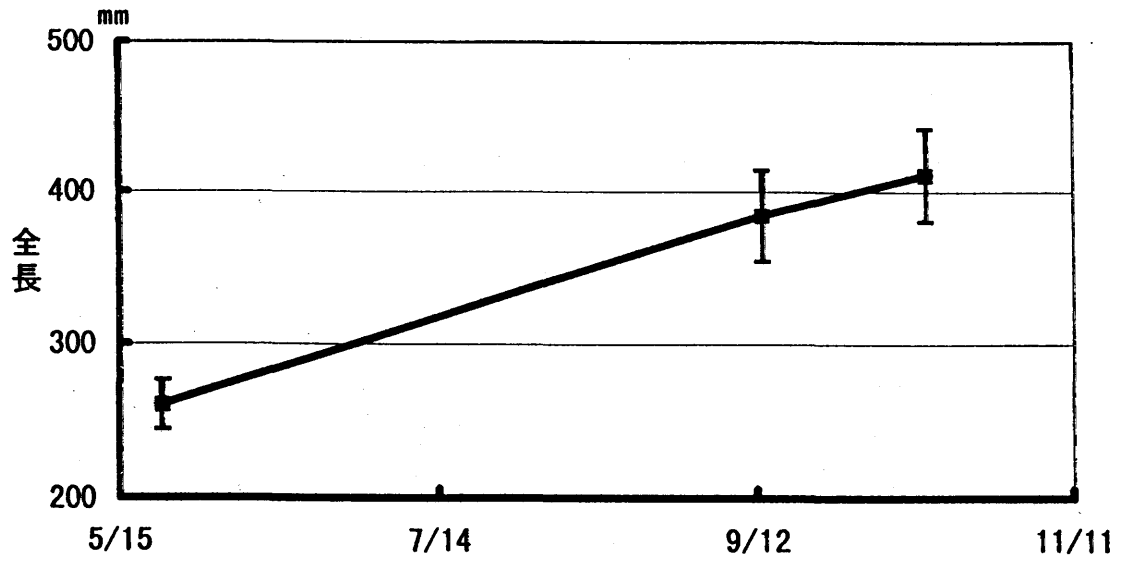


図5 H8年度養殖ヒラメの成長状況(全長)

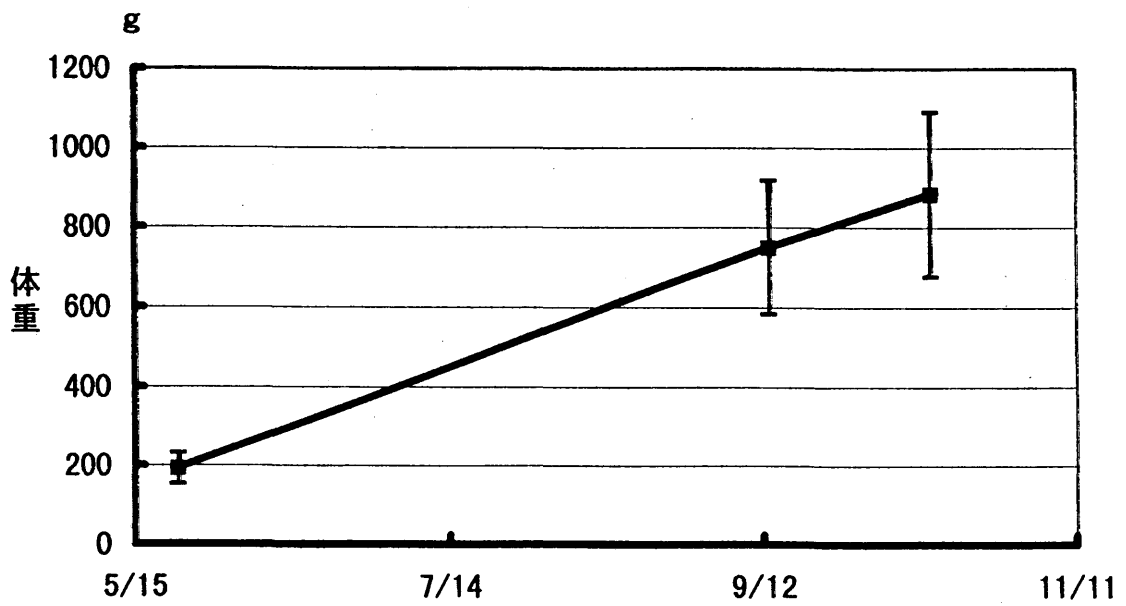


図6 H8年度養殖ヒラメの成長状況(体重)

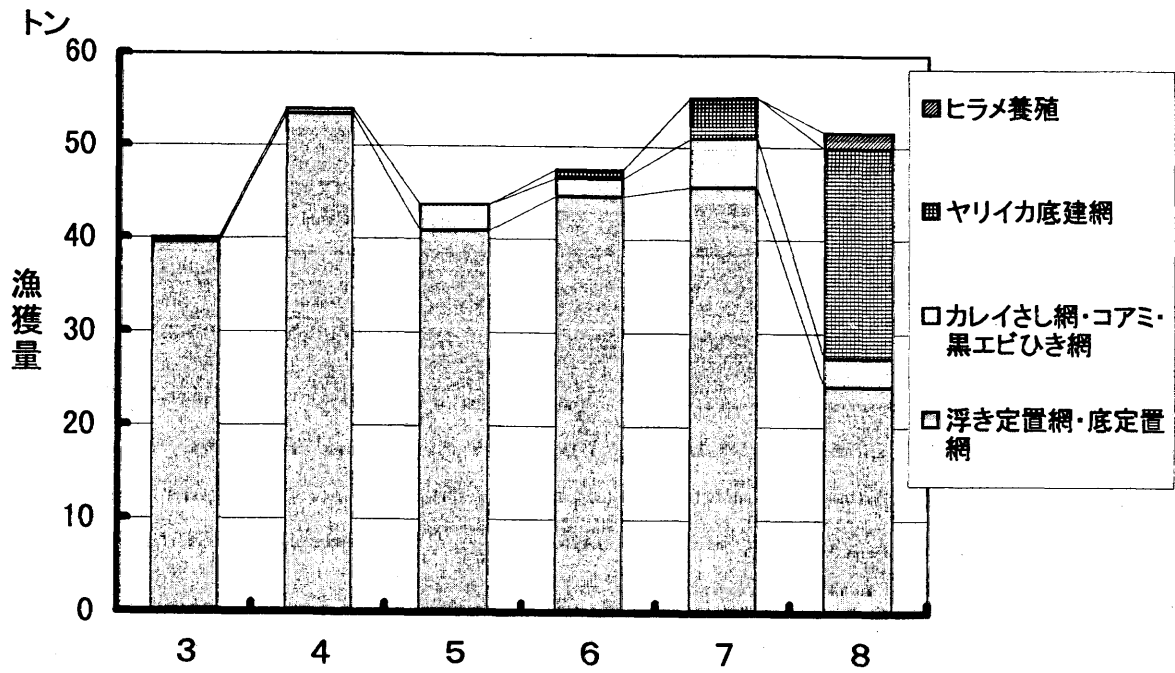


図7 金浦養殖研究会漁獲量の推移

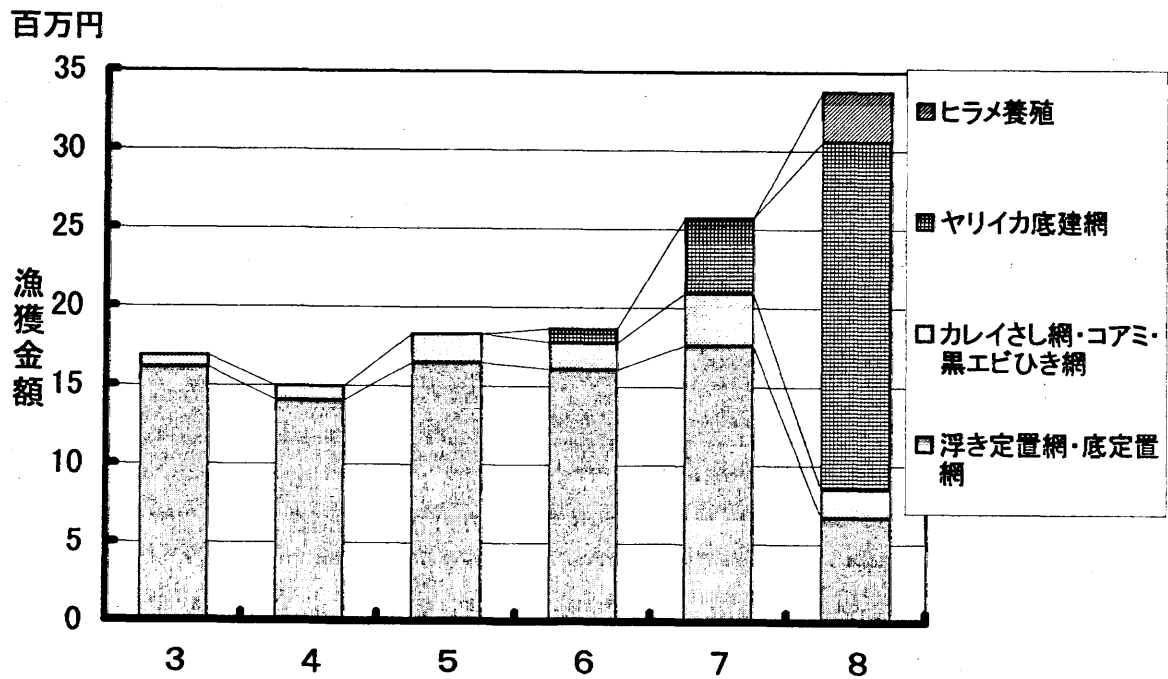


図8 金浦養殖研究会漁獲金額の推移